

# アルミ輸入、新地金際ぎ増加

## 住宅、自動車の堅調を受け

橋本金属  
アルミ橋本健一郎氏リポート②

### ■概況

一月前半は二〇二三年十二月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数が市場予想を大幅に下回ったことによる金融緩和と縮小純化観測や、二〇二三年の中国自動車販売は前年比二二・九%増の二、一九八万台だったこと、十一月の米建設支出は前月比一%増加、予想の〇・六%増加を上回るなどのプラス材料があったが、中国の非製造業PMIが五四・六に低下し四カ月ぶりの低水準となったことなどのマイナス材料から、LMEアルミ相場は下落、一、七二七ドル(現物後場買値)と前月最終価格から二六二ドル下落して前半締めとなった。

後半は十二月の欧州新車登録台数は前年比一三%増の九四・八万台で四カ月連続増加。十二月のユーロ圏CPI改訂値は前月比〇・三%上昇、前年比〇・八%上昇。昨年十二月の英小売売上高指数が予測を上回り、またIMF、二〇一四年の世界経済成長率を三・七%とした。昨年十月時の三・六%から上方修正。一月のユーロ圏総合PMI速報値は五三・二に上昇、予想の五二・四を上回った。

インドネシアの鉱物&ボーキサイトの輸出禁止措置からニッケル、アルミなどの供給不安が台頭するなどプラス材料もあったが、十二月の中国の新規人民元建て融資は四、八二五億元。予想の六、〇〇〇億元を下回ったことや、十二月の中国鉱工業生産が九・七%減少、一月のHSBC中国製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値は前月比〇・九ポイント低い四九・六となり、半ばぶりに好不況の境目となる「二五〇」を下回るなど、中国で景気減速を示す経済統計が相次いだ。

またアメリカの金融緩和縮小や中国景気後退による新興国からの資金流出不安でトルコ、アルゼンチン株が暴落したことから世界景気後退懸念が台頭。二月四日現在、LMEアルミ相場(現物後場)は一、六四五ドルと前半締めから七二ドル下落してのスタートとなった。

### ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTM)  
一〇五・〇三→一〇二・四五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比二二・二%増の七八万六、六〇九台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比二七・五%増の二九万二、四四六台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数

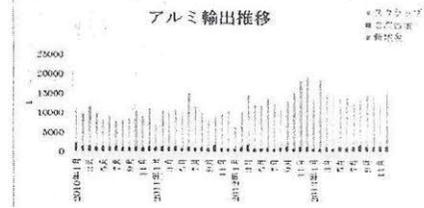
は前年比一八%増の八万九、五七八戸であった。

### ◆貿易関連指標

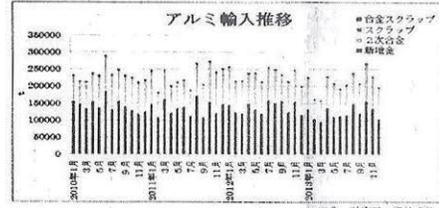
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比一一・三%減の一、二六七、二次合金が一〇・一%増の一、三二四、スクラップが二二%減の一、四四一、四五七。

輸入は新地金が前年比一一・五%減の一〇万二、四一〇、二次合金が一一・八%増の九万〇、四六三、スクラップが一七・九%増の七九七、合金スクラップは六七・九%増の三、八六四。

	10月	11月	12月
輸出	203t	144t	126t
新地金	-	-	-
前年比	-73.5%	-50.2%	-11.3%
二次合金	1325t	1340t	1314t
前年比	+73.5%	+28.7%	10.1%
スクラップ	18002t	11106t	14145t
前年比	-11.5%	-35.2%	-22%



	10月	11月	12月
輸入	16万6840t	13万4017t	10万2410t
新地金	427.1%	-13.1%	-11.5%
前年比	10万6996t	9万189t	9万463t
前年比	+21.7%	-0.1%	+11.8%
スクラップ	656t	880t	797t
前年比	44.5%	+39.5%	+17.9%
合金スクラップ	6009t	5373t	3864t
前年比	+29.8%	+73.8%	+67.9%

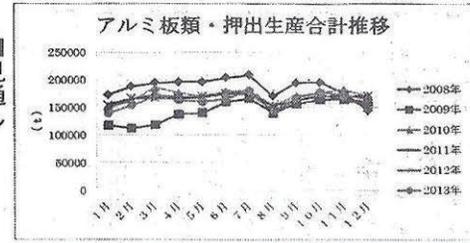


### ■前月の国内指標

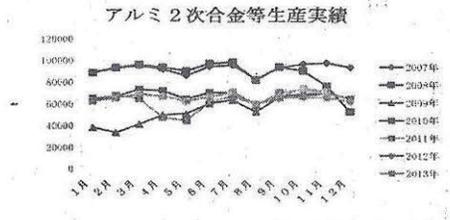
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比七・二%増の一六万五、四六九t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比三・二%増の六万七、八二一tであった。(六面へ続く)

# アルミスクラップ価格は下落も (四面より続く)



出典 日本アルミニウム協会



出典 日本アルミニウム協会

## 見通し

一月は米連邦準備理事会(FRB)による金融緩和縮小や中国景気後退観測による新興国からの資金流出問題に一喜一憂した月となった。

自動車生産は前年比一二・二%増の七十八万六六〇九t。四カ月連続プラス。このうち、乗用車は六六万八、〇三三台で七万三、三三〇台・一二・二%の増加となり、四カ月連続のプラス。トラックは一〇万八、五七三台で一萬二、一四二台・二・六%の増加となり、六カ月連続のプラス。バスは一萬〇、〇三三台で二五五台・二・三%の増加となり、三カ月ぶりにプラス。輸出は前年同月比五・一%の減少。(実績)

販売の方は五カ月連続前年超え。前年比二七・五%増。このうち乗用車は二八%増、貨物二四・四%増、バスは四・六%減。

新設住宅着工戸数は一六カ月連続増加、前年比一八%増(季節調整済み前月比一・七%増)の八・九万戸。このところ、消費マインドの改善等もあり、堅調に推移。このうち持家一九・一%増、貸家二九・八%増、分譲住宅二・一%増、分譲マンション七・四%減。

自動車関連のアルミニウム合金生産は前年比三・二%増と六カ月連続プラス。

圧延に関して、圧延・押出品生産数は七・一%増の一六万五、四六九t。四カ月連続プラス。  
【缶材】一・一%増。十二月のビール系飲料の出荷量は前年比マイナス(対前年同月比〇・五%減)となり、ボトル缶も減少。ビール系以外の飲料(ホット炭酸、ノンアルコール等)の好調により、三カ月ぶりにプラス。

【自動車】二〇・五%。前年の数字がエコカー補助金制度終了の影響で低かったのに加え、消費税増税前の駆け込み需要に伴う新車販売台数の好調により、四カ月連続でプラス(十二月の新車販売台数・四二万三千台、対前年同月比二五・〇%増)。

【輸出】中国、東南アジア向けに需要は

低調で、九カ月連続でマイナス。

アルミ輸出は新地金が前年比二・三%減の二二六t、二次合金が一〇・一%増の一、三二四t、スクラップが二・三%減の二万四、一四五t。自動車用途の多い二次合金以外は円安を背景に輸出増との見解。輸入は新地金が前年比二・五%減の一〇万四、四一〇t、二次合金は一・八%増の九万〇、四六三t、スクラップは一七・九%増の七九七t、合金スクラップは六七・九%増の三、八六四t。港湾在庫の少ない地金以外は内需好調により輸入増(アルミ需給に関して)。

住宅関連は新設住宅着工数が前年比一八%増の一六カ月連続増加、持家一九・一%増、貸家二九・八%増と大幅増。消費税前の駆け込み需要から依然好調さが伺える。今後の動向に期待。待望の自動車は生産が四カ月連続上昇の一・二%増。さらに十二月の国内販売台数が前年比二七・五%増と大幅増。前月に続き予測の通り販売増につられて生産が増加。消費税前の駆け込み需要から住宅、自動車需要の二本柱が上昇。

為替が一時一〇〇円近辺と大幅円高が進行。輸入原材料への割安感が多少台頭したものの国内原材料へのシフトが見られるが、こちらも発生難から引き続き供給不足が続くとの見解。ただ消費税前の駆け込み需要が終わる四月以降一旦需給は緩む。

## 【アルミ価格に関して】

今月は春節明けの中国の動向及び、新興国からの資金流出問題に左右される。

中国の動向に関しては一月のHSBC中国製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値は前月比〇・九ポイント低い四九・六となり、半年ぶりに好不況の境目となる「五〇」を下回ったことから後退懸念は根強いのではないかとまたそれに伴い資金流出問題も再燃する可能性は高い。FRBの金融緩和縮小も米国自身の株価がさらに下落しなければベイスを落とす可能性は低く、今月は希望薄。

それらを踏まえたLMEアルミ価格の上値は、春節明けに景気対策や声明もしくはFOMCで金融緩和縮小ペースの鈍化など行われた場合、一月後半高値付近の一、七五〇ドルを予測。下値は前記の景気対策などが行われなかった場合、一月後半もう一段安値の一、六〇〇ドルを予測。

スクラップ価格についてはLMEアルミ価格は先月の水準から七二ドル程度下落。住宅、自動車販売の堅調や消費税増税前の駆け込み需要からの需給ひつ迫はあるものの、為替は一時一〇〇円台まで進行したことや、LMEアルミ価格が一月高値からは約一〇〇ドル程度暴落していることから、二、五円下落との予測。

為替は上記景気対策が行われた場合、下値は他国通貨高円安から一月後半安値の一〇四円、上値は景気対策が行われなかった場合、失望感から九九円まで円高が進むとの予測。